



～土着天敵の探索～

病害虫の被害を軽減する手法として、土着天敵を利用する方法があります。効果的に利用すれば農薬の使用回数を減らすことができ、より一層、安全安心な生産物を供することができます。

農業センターによる土着天敵の調査は、過去に断片的にはありますが、利活用まで至る試験研究は行っておりませんでした。害虫や天敵発生の子年変動が激しく、毎年安定した効果を得るのが困難であることなどが予想されたためです。一方で、近年、土着天敵の利用法に関する知見が全国的にも多くなってきました。これら技術を駆使し、小笠原ならではの土着天敵の利用法を構築できないかと考えました。

予備調査では、ハダニの天敵であるヒメハダニカブリケシハネカクシや、アザミウマの

天敵であるタイリクヒメハナカメムシなどの存在が明らかになっています。また、限定された範囲ですがレモンに発生したアブラムシが、ヒラタアブおよびクサカゲロウの幼虫により激減した事例も観察できました。

今後、天敵となりうる昆虫の有無やバンカープランツなどを用いた土着天敵の温存・利用方法について研究していきます。



シカクマメに発生したハダニを捕食する
ヒメハダニカブリケシハネカクシ

〈病害虫担当：小野〉

～アテモヤの栽培事例のパンフレットを作成しました～

パンフレット「小笠原におけるアテモヤ栽培の実際」を作成しました。アテモヤには様々な栽培法がありますが、これまでの試験研究の成果をふまえ、栽培の1事例としての情報が記述されています。パンフレットには、最も高品質に収穫できる栽培暦を載せておりますが、開花期が長いので、それぞれの経営状況に合わせて栽培していただくことで、複合経営が可能になると思います。

パンフレットは農業センター、営農研修所

にて配布しております。また支庁ホームページにも掲載しております。ご利用ください。

(<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/07ogawara/farm/manual.html>)



〈元果樹担当：小野〉

～平成28年度試験成績概要～

1. 経営の二番手となる有望品目の効率的生産技術の開発

●「菊池レモン」果実の日焼け抑制技術の開発（第2報）

ポリエステル製筒網の被覆は、生産現場において日焼け果率を40%抑制しました。被覆の有無や日焼け程度の違いによる果実の糖度・酸度への影響は、ほぼありませんでした。今後、被覆による病虫害の影響や日焼けと気象条件の関係について検討していきます。（荒井）

●簡易コンテナ貯蔵法を用いた菊池レモン果実の貯蔵特性

「菊池レモン」の貯蔵において、低温貯蔵（7℃）は室温貯蔵（23℃）と比較して、減量歩合を低く推移させ、緑色保持期間を延長させました。被覆の有無による減量歩合と緑色保持効果の差は小さいことから、高湿度下では被覆する必要はないことが明らかになりました。今後、さらなる緑色保持期間の延長を目指して、貯蔵方法の検討を継続していきます。（荒井）

●「小笠原オレンジ」の優良系統選抜における果実品質特性および貯蔵特性

結実2年目の「小笠原オレンジ」において、硫黄島由来I系は収量性、父島由来S系・K系は果実品質が優れていました。母島由来O系は貯蔵性・果実肥大性が劣っていました。今後も調査を継続していきます。（荒井）

2. 亜熱帯地域におけるパッションフルーツ施設栽培技術の開発

●「サニーシャイン」の地域適応性評価試験 開花特性および果実品質の評価

国際農林水産業研究センター育成系統パッションフルーツ「サニーシャイン」は、「台農1号」と比較して高温期の着花性は同程度ですが、着果率が低くなりました。また、高温期の着色が良好で、果実の青落ちがわずかでした。収穫果は大きく、果肉歩合も高いですが、糖度・酸度が低い値となりました。次作も生育特性などを継続調査して、最終的な評価を行います。（菅原）

●遮光資材およびミスト装置によるパッションフルーツ栽培施設内高温抑制効果の検討

遮光資材およびミスト装置による施設内高温抑制は、60%遮光ネットにおいて最大で-5.4℃、平均で-2.7℃と最も効果があり、遮光による一定の効果が認められました。今後、光合成有効光量子密度の減少が生育や果実品質に与える影響について調査していきます。（菅原）

●遮光資材とミスト装置を組み合わせた施設内高温抑制効果の検討

遮光資材とミスト装置の組み合わせによる施設内高温抑制は、遮光率60%ネット＋ミスト装置において最大で-12.0℃（平均で-2.1℃）と最も効果があり、遮光率30%、45%ネット＋ミスト装置の組み合わせにおいても一定の温度抑制効果が認められました。今後、それら有望な処理方法が、生育や

品質へ与える影響を調査し、現場への導入を検討していきます。（菅原）

3. 世界自然遺産登録地に適したアフリカマイマイ管理技術の検討

●固有陸産貝類とアフリカマイマイの防除薬剤への到達性の比較（遠距離）

これまでに、陸産貝類防除薬剤に対する到達性は、近距離（0.3m）では固有陸産貝類も外来陸産貝類と同様に到達し、誘殺されることが明らかとなっていました。今回の調査により、陸産貝類防除薬剤や野菜苗の有無に関わらず、アフリカマイマイ（外来種）の方がコガネカタマイマイ（固有種）よりも移動性（到達性）が高い傾向があることが示唆されました。よって、薬剤散布を圃場のごく周辺に限定すれば、固有陸産貝類への影響を最小限にできる可能性があります。（大林）

●父島および母島におけるアフリカマイマイの分布（第13回全島調査結果）

今回の調査では、母島での生貝発見率および密度が前回より大幅に減少しましたが、調査日前の降雨が少なく、アフリカマイマイの活動が抑制された影響と考えられます。一方、父島では発見地点が農業地域で1地点増加し、その密度も他の地点より高くなりました。生産者からの聞き取り調査では、マイマイが減った実感がない（母島）、近年マイマイの増加が著しい（父島）という意見がありました。今後も継続して全島調査を行い、動向を注視していきます。（小野）

4. 世界自然遺産登録地に適した侵入害虫等管理技術の開発

●パッションフルーツ実腐病（新称）の発生

収穫後のパッションフルーツ果実に発生する腐敗症状は、*Diaporthe*属菌による病害でした。本属菌によるパッションフルーツの病害は本邦未記録であるため、本病を実腐病としました。円班病や疫病に登録のあるアミスター10フロアブルまたはダコニール1000の1000倍液の散布により、発病を抑制できる可能性があります。今後、防除方法の確立や病原菌侵入を防ぐため、感染経路を明らかにしていきます。（小野）

●カカオ疫病（新称）の発生

カカオ果実に発生した腐敗症状は、*Phytophthora palmivora*による病害であり、病名を疫病としました。海外では本菌による果実腐敗や枝枯れ症状も報告されているため、今後注意が必要です。過灌水にならない水管理や、敷き藁で水の跳ね返りを防ぐ等、耕種的な対策が重要です。（小野）

5. 産卵鶏飼料の低コスト化が生産性に与える影響把握

●市販飼料飽食に対する制限給餌および低コスト自家配合飼料の比較

産卵鶏に対する低価格自家配合飼料の飽食は、市販飼料飽食と比較して卵生産性が劣っています。しかし、市販飼料に関しては25%制限給餌しても飽食と比較して産卵率に差はみられず、産卵鶏1羽あたりの粗利益（卵価格－飼料コスト）は優れました。（太田）

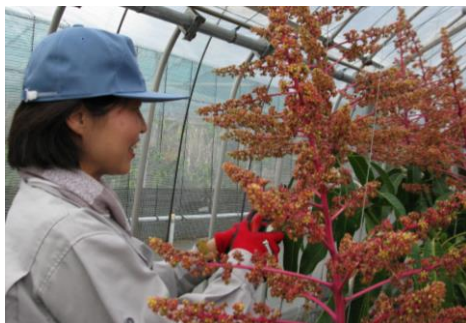
詳細については、以下のホームページをご覧ください。

検索

小笠原支庁 → 亜熱帯農業センター → 試験研究成果概要

～ 着任職員の紹介(父島) ～

よしはら けいこ
吉原 恵子 研究員



このたび中央農業改良普及センター東部分室から転勤してまいりました吉原恵子です。前回（H8年7月より6年間）の赴任から15年ぶりの小笠原となります。前回は野菜（トマトやシカクマメなど）の担当でしたが、今回はマンゴー・ライチ他を担当します。これからの小笠原農業の振興にお役に立ちたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

はやし なおこ
林 尚子 農芸員



4月より農芸員として着任いたしました林尚子と申します。東京都の練馬区出身で父島に住んで11年になります。以前より農業センターでアルバイトをしておりました。この度の農芸員への着任により気持ちも新たに日々経験を積み重ね、知識や技術を身に付けて小笠原の農業や産業の発展に少しでも貢献できるように頑張りたいと思います。どうぞ宜しくお願ひいたします。

※次号は母島の着任職員の紹介をいたします。

H29年度の農業センターの分担が決まりました。所長の河野は全体の総括。吉原は固有種の主担当、およびマンゴーやライチなど果樹も担当します。小野は病害虫の主担当です。菅原は果樹の主担当でパッションフルーツを担当します。荒井はカンキツ類を担当します。ご質問、ご要望は各担当者が承りますのでよろしくお願ひいたします

平成29年3月31日付けで、技能職のセーボレー（再任用）が退職となりました。亜熱帯農業センターでの38年間、長い間お世話になりました。

土壌診断のお知らせ

合理的で効率の良い施肥や土作りのための、土の定期診断を受けましょう。野菜では、作付けが終わり次の畑の準備をする前、果樹では収穫が終わって施肥をする前がチャンスです。一握り程度の土を採り、ゴミやホコリ等を取り除き、よく乾かして、できれば目合い5mm程度のフルイを通して、紙封筒（提出場所にあります）に入れて、ご氏名、連絡先、畑の場所等を記入して右記の期限までに提出して下さい。

☆提出先

→父島は農協父島支店、母島は農協母島店です。

	土壌試料提出期間	処方箋交付
第1回	6月26日(月) ～ 7月7日(金)	7月下旬
第2回	8月21日(月) ～ 9月1日(金)	9月中旬